

日本新生児成育医学会 2024年度 第1回理事会 議事録

日時：2024年2月5日（月）18：00～20：40

形式：Web会議システム Zoom を利用

出席者：高橋尚人（理事長）、諫山哲哉、落合正行、影山 操、河野由美、日下 隆、
佐藤義朗、東海林宏道、長 和俊、徳久琢也、中西秀彦、難波文彦、長谷川久弥、
飛弾麻里子、廣間武彦、水野克己、森岡一朗、芳本誠司、和田和子（各理事）
中村友彦、与田仁志（各監事）、荒堀仁美、北東 功、山田恭聖（各幹事）

欠席者：細野茂春（理事）

（敬称略）

議 事：

議事に先立ち、高橋理事長より定款41条に則り、出席者が開催可能人数に達しており、理事会が成立する旨説明があった。

1. 理事長報告

1) 通信理事会議決結果報告の件

議決を取ったものは6件、そのほかのお知らせなどは7件であった。

2) 2024年度会計途中経過報告の件

10～12月の年会費は全会員2,585名中、名誉・功労会員137名を除く2,448名のうち、延べ1,802名（73.6%）より納入され、代議員費を合わせて23,015,000円の会費納入となった。

3) 非医師入会の件

臨床工学技士の方より入会申込があった。

4) こども家庭庁より意見収集協力依頼の件

こども家庭庁成育局母子保健課より「こども家庭科学研究費補助金」の研究班によりまとめられた『1か月児健康診査の標準化に関する提言書』から抜粋した「1か月児健康診査」について、当学会からの意見を求められた。理事からの意見を荒堀幹事が取りまとめ、提出した。こども家庭庁より各自治体へ12月28日付けで「1か月児及び5歳児健康診査支援事業」を发出したことが報告された。

5) 第64回日本呼吸器学会学術講演会の件

日本呼吸器学会より依頼があり、第64回学術講演会（2024年4月5～7日開催）の共同企画として中西理事が座長を務め、平田克弥先生、藤本健志先生が講演される。

6) 「日本におけるRSウイルス感染症に対する抗体製剤・ワクチンの使用に関するコンセンサスガイドライン」検討ワーキンググループ委員推薦の件

日本小児科学会より「日本におけるRSウイルス感染症に対する抗体製剤・ワクチンの使用に関するコンセンサスガイドライン」検討ワーキンググループ委員の推薦依頼があり、感染対策予防接種委員会より森岡一朗委員長と野崎昌俊委員を推薦した。

7) 先天性高インスリン血症ガイドライン改訂における外部評価委員推薦の件

日本内分泌学会より先天性高インスリン血症ガイドライン改訂における外部評価委員推薦依頼があり、医療の標準化委員会で検討し、友滝清一委員を推薦した。

8) 日本小児集中治療研究会より小児輸液療法のシステムティックレビュー協力依頼の件

日本小児集中治療研究会の加藤宏樹先生（国立成育医療研究センター）より、小児輸液療法のSR（最終的にはガイドライン作成予定）にあたり医療の標準化委員会の下部組織であるJEBNeoに協力依頼があった。委員会で検討し、日本小児集中治療研究会の活動に協力することとした。

9) 小児医学川野賞選考の件

「令和5年度 第24回小児医学川野賞」の選考結果が届き、当学会から推薦した先生は残念ながら落選となった。

10) 「被災地の避難所等で生活をする赤ちゃんのためのQ&A」の件

朝日新聞社が能登半島地震に関連し、日本災害医学会の岬 美穂先生を取材した。その際、乳幼児連れの避難生活の注意点として、本学会ホームページに掲載している「被災地の避難所等で生活をする赤ちゃんのためのQ&A」が紹介された。朝日新聞に取材記事と一緒に本学会ホームページのURLが掲載される。また、育児雑誌の『ひよこクラブ』編集担当者からも依頼があり、「後期のひよこクラブ春号」および「たまひよWEB」に掲載される。

和田理事より緊急で掲載されることが多いため、該当サイトに「本学会の承諾なく転載可（ただし、事後報告要）」とした文言を表示してはどうかと提案があり、採用された。

11) 日本小児科学会より小児科医のための到達目標（第7版）改訂作業への協力依頼の件

日本小児科学会より到達目標改訂作業の協力依頼が届いた。前版で改訂作業を行った教育委員会に対応を依頼した。

12) 日本小児科学会より日本小児医療保健協議会（四者協）で作成された「医療的ケア児の在宅移行のための指針」査読依頼の件

日本小児科学会より日本小児医療保健協議会（四者協）で作成された「医療的ケア児の在宅移行のための指針」の査読者選出依頼があった。診療委員会、医療の標準化委員会で検討し、診療委員会の和田 浩委員（医療福祉センターさくら）を本学会より推薦することとした。

13) 選挙スケジュールの件

2025～28年度代議員選挙、2025～26年度理事選挙のスケジュールを確認した。代議員選挙は2024年4月8日を公示日とする。選挙権は公示日までに引き続き1年以上の入会と、2024年度までの年会費の納入が必要となる。

14) 名誉会員 小田良彦先生ご逝去の件

本学会の名誉会員である小田良彦先生が2023年11月27日にご逝去されたと連絡があり、理事・名誉会員・功労会員の先生方に発信した。

15) 理事長職務報告

通信理事会の発信、問合せ対応を行った。

2. 審議事項

第1号議案 選挙管理委員選出の件（高橋理事長）

選挙管理委員候補に推薦した以下3名について賛成1/2以上で承認可決された。

委員長 北島 博之先生（名誉会員：大阪母子医療センター）

委員 島 孝典先生（一般会員：大阪母子医療センター新生児科）

委員 尾上 泰祐先生（一般会員：大阪大学医学部附属病院小児科）

第2号議案 学術集会講演録の学会誌掲載の件（高橋理事長）

これまで学術集会同期後に各演者・座長へ執筆を依頼し、講演録を学会誌へ収載してきた。一部の理事より多忙のため執筆が難しいという意見があがっている。今後（第68回学術集会以降）、講演録を学会誌へ掲載するかについて審議した。

講演録の需要があるのか、会長講演・招待講演・教育講演といった総説的な講演は掲載し、シンポジウムやワークショップは盛況であった演題のみ掲載した方がよい、二重投稿の問題から一律に講演録を執筆するのは難しい、といった意見があがった。

今後は一律に依頼するのではなく、検討した上で講演録として残す演題を決めることが望ましいとなった。どのように検討するのかについては継続審議となった。

第3号議案 稀有疾患（病態）サーベイランス事業対象疾患の承認可否の件（長理事）

難波理事より「気管切開を要した新生児慢性肺疾患」についてサーベイランスの申請があった。医療の質向上委員会で検討の後、担当施設の倫理審査を通過した時点で通信理事会に諮った。1名以上「反対」の投票があったため、通信理事会は非承認で終了した。

その後、反対意見や質問に対応し、「気管切開を要した新生児慢性肺疾患」について稀有疾患（病態）サーベイランス事業対象疾患とすることが賛成1/2以上で承認可決された。

第4号議案 学術集会優秀演題賞選出の件（高橋理事長）

2023年度第5回理事会で「学術集会優秀演題（仮）」の選出を再開することが決まった。2024年11月開催の第68回学術集会から選出を再開し、選出本数については受賞することで若手医師の励みとなることを期待し、複数の賞を設ける意見が多くあがった。

選出方法、選出本数については第68回大会長の中村監事と第69回大会長の高橋理事長で検討することとし、継続審議とした。

第5号議案 学会ホームページ会員専用サイトへ掲載項目追加の件（落合理事）

国立成育医療研究センターの妊娠と薬情報センターより「医療用薬品添付文書の妊婦に関する禁忌等の記載内容の変更を希望する薬剤調査」への協力依頼があった。日本医師会より依頼のあった「薬理作用に基づく医薬品の適応外使用事例」の募集と同様に、会員専用サイトに調査のリンクを作成することが賛成1/2以上で承認可決された。

第6号議案 投稿規定改訂の件（東海林理事）

2020年11月に改訂されて以降、更新されていなかった投稿規定とチェックリストを学会誌編集委員会で見直し、学会ホームページの掲載内容に合わせて改訂案を策定した。改訂内容について、賛成1/2以上で承認可決された。

第7号議案 日本小児内分泌学会より「SGA性低身長症におけるGH治療の手引き」共同策定およびガイドライン策定担当者推薦の件（高橋理事長）

日本小児内分泌学会より「SGA性低身長症におけるGH治療の手引き」の共同策定、およびガイドライン策定担当者の推薦依頼があった。共同で策定するか、あるいは担当者を推薦するか検討し、水野理事より推薦のあった中野有也先生（昭和大学江東豊洲病院）を本学会より推薦することが賛成1/2以上で承認可決された。

第8号議案 日本小児内分泌学会より「低ホスファターゼ症診療ガイドライン改訂」協力依頼の件（高橋理事長）

日本小児内分泌学会より「低ホスファターゼ症診療ガイドライン改訂」の協力依頼があった。今後、改訂版の作成、草案に対する意見聴取などに協力することが賛成1/2以上で承認可決された。

第9号議案 パリビズマブ適正使用の手引き作成委員会手引き骨子案レビューの件（森岡理事）

AMEDの主任研究者である東京医科歯科大学の森 雅亮先生よりパリビズマブ適正使用の手引きについて本学会によるレビュー、承認の要望があった。高橋理事長より感染対策予防接種委員長の森岡委員長に確認依頼があり、委員会内で複数の意見があがった。

意見に対し、森 雅亮先生より回答があり、再度委員会で検討し、文章を提案することとした。

長谷川理事より他にも監修学会が複数あり、本学会の承認が最後になっていること、来シーズンから適応拡大の方針としたいことが報告され、提案した内容が反映されれば本学会として承認することが賛成1/2以上で承認可決され。

第10号議案 委員会の統合（削減）の件（高橋理事長）

現在、WGも含め26ある委員会（委員会：22、WG：4）の統合（削減）を図りたい。産科医療補償制度対

応委員会は廃止し、利益相反委員会は総務委員会に合併、調査研究審査委員会は倫理委員会に合併し、委員会を3つ削減し、19委員会とすることが高橋理事長より提案され、次回継続審議とした。

また、男女共同参画推進委員会は委員会名の変更を検討する。

第11号議案 理事の緊急連絡網の件（高橋理事長）

高橋理事長より2024年1月1日（月）に発生した能登半島地震の際、連絡網がないことに不便を感じたため、連絡網の作成について提案があった。

今回の発災を受けて、発災後の超急性期はリエゾンが活動し、学会は超急性期ではなく、急性期以降に活動するほうがいいとの意見があがった。また、徳久理事よりPEACE（大規模災害対策情報システム）からの情報収集が有用であったことが報告された。

連絡ツールとして安否確認システム使用の提案もあったが、緊急時に普段使用しないシステムは使いづらい可能性があるとの意見もあがった。

緊急時に理事間での情報共有をどうするかについて、次回までに検討するよう災害対策委員会の徳久委員長に依頼し、継続審議とした。

第12号議案 代議員の希望委員会の件（高橋理事長）

2023年度第5回理事会で「2025～28代議員選挙の際、立候補時に委員会の希望を1つ以上選択しないと立候補できない仕様とする」ことが賛成1/2以上で承認可決されたが、委員会を見直すこともあり、代議員当確後に希望委員会を挙げてもらうことに賛成1/2以上で承認可決された。

第13号議案 メディカ出版刊行『新生児疾患カラーアトラス』データベース化の件（高橋理事長）

メディカ出版より2014年に刊行した『新生児疾患カラーアトラス』の編著者である橋本武夫先生より同著掲載のデータについて「日本新生児成育医学会にデータベースとしての活用の検討を委ねたい」とメディカ出版の編集担当者宛に連絡があった。

橋本先生は本書の企画・制作段階から、「いつかすべての写真をデータベース化（症状や所見で写真を検索できて、会員自身が写真を登録でき、診断の一助となるもの）して多くの人に利用してほしい。臨床医の手で、新生児疾患カラーアトラスを育てていってもらいたい」という想いをお持ちだった。

大変貴重な症例のデータであるため残したい、本学会の会員専用サイトで公開してほしい、と希望があがった。記載情報を検索することより、疾患名と日本人の画像データが一致するかを確認することが重要など、様々な意見があがった。

理事からの意見をまとめ、高橋理事長よりメディカ出版の担当者へ伝え、継続審議とした。

第14号議案 日本NICU家族会機構（JOIN）より名義後援の件（高橋理事長）

JOINより名義後援依頼があった。昨年も同様の依頼があり、2023年度第2回理事会で審議し、「これまで本会が団体本体に対し名義後援をしていないことや、本会が公益社団法人であり慎重な対応が求められることなどから、個々のイベント・活動に対して都度、後援を検討すること」として見送られた。今回、あらためて審議することとした。

飛弾理事より家族会が単独で活動することは難しいため、関連する学会と関係を持ってほしいという意図があると思われると報告があり、ウェブサイトや資料における名義後援について賛成1/2以上で承認可決された。

第15号議案 倫理委員会企画ウェビナー開催の件（飛弾理事）

倫理委員会企画でウェビナーを開催したい。

講師：笹月桃子先生

テーマ：改訂される「重篤な疾患を持つ子どもの医療をめぐる話し合いのガイドライン」についての解説

時期：ガイドラインの改訂版が公開される頃（11月か12月）

笹月先生のご了承が得られれば、e-learningコンテンツとして学会ホームページに掲載する。現時点で内諾

はとれていないが、ウェビナー開催について賛成 1/2 以上で承認可決された。

第 16 号議案 学術委員会委員交代の件（長谷川理事）

学術委員会の菅波佑介委員が辞任することとなった。後任として奈良昇乃助先生が参画することが賛成 1/2 以上で承認可決された。

3. 第 68 回学術集会（中村会長）

2024 年 11 月 8 日（金）～ 10 日（日），ホテルブエナビスタ（長野県松本市）

第 33 回日本新生児看護学会：11 月 9 日（土）～ 10 日（日）

テーマ「Family centered care のこれから」

開催方法は、現地開催と後日オンデマンド配信のみで、当日のハイブリット開催は行わない。

The 6th Taiwan-Korea-Japan Joint Congress が 11 月 9 日（土）に開催。

社員総会は 11 月 9 日（土）夕方に開催。

社員総会のあと、本学会、日本新生児看護学会、Taiwan-Korea-Japan Joint Congress の合同懇親会を開催。

4. 第 69 回学術集会（高橋会長）

2025 年 11 月 13 日（木）～ 15 日（土），パシフィコ横浜 会議センター

第 34 回日本新生児看護学会は 11 月 14（金）～ 15 日（土）

テーマは「激動の社会の中の新生児医療（仮）」

5. 第 70 回学術集会（森岡会長）

2026 年 11 月 20 日（金）～ 22 日（日），パシフィコ横浜 ノース

6. 各種委員会報告

1. 学術委員会（長谷川委員長）

1) 第 5 回 web セミナー（学術委員会主催）を開催した

申込者：240 名→事前登録者→164 名→当日参加者：94 名（講師含む）

配信日：2024 年 1 月 22 日（月）18：00～19：00 + 質疑応答

講演 1「エディター・レビューワーに読んでもらえる症例報告の基本（2）図表を中心としたお作法」：細野茂春先生（自治医科大学附属さいたま医療センター周産期科新生児部門）

講演 2「さまざまな障害や疾患のある児童生徒・学生に対する修学・就労へのインクルージョンと中長期的な伴走支援～ DO-IT Japan の実践から～」：近藤武夫先生（東京大学 先端科学技術研究センター 社会包摂システム分野）

2) 佐多フェローシップキングスカレッジ・プログラム対象者選考

2023 年 12 月 31 日（日）を締切として募集していた佐多フェローシップに、今年度は 5 名の応募があった。学術委員会で選考し、池田健太先生（東京女子医科大学附属足立医療センター）を当学会より推薦することとした。

2. 国際渉外委員会（難波委員長）

1) IPOKRATES JAPAN について

- 開催時期：2025 年 10 月 16 日（木）～ 18 日（土）の 3 日間

- 開催場所：ウエスタ川越（埼玉県川越市）

予算が決まり次第、理事会に上申する。中国より joint の依頼があり、日本開催前に中国で開催し、講演者がそのまま来日して講演をする予定である。

2) 日台韓 joint congress について

会 合：The 6th Japan-Taiwan-Korea Joint Congress on Neonatology

日 時：2024年11月9日（土）（第68回学術集会2日目）

会 場：ホテルプエナビスタ 150名規模会場

参加費：海外，国内，いずれの参加者も無料

（第68回学術集会参加者はJoint Congressにも参加可能）

演 題：口演発表

（第68回学術集会の演題をJoint Congressで英語発表するケースも容認）

懇親会：前日11月8日（金）19：00～ ウェルカムディナー

⇒2カ国の特別講師・座長・理事長ら（トータル20名程度）を招待

当日11月9日（土）昼食 Joint Congress参加者分は手配

⇒別室でお弁当，もしくはランチョンセミナーを開催

（ランチョン案：フィンランドの先生によるセミナー）

当日11月9日（土）本学会，看護学会，Joint Congress合同全体懇親会

⇒Joint Congress一般参加者は無料で招待

3) 日本小児科学会より「第5回JPS-SPR Fostering Leadership Program 公募」の案内があり，会員へ発信したが応募はなかった。

4) 日本小児科学会の国際渉外委員会から「Outstanding Asian Pediatrician Award (OAPA) の公募」の案内があり，会員へ向けて発信した。現在1名から応募がある。

5) 韓国新生児学会より春季年次大会（Annual Spring Meeting）の案内があり，日本から講演者を1名選出して欲しいと依頼があった。現在3名の候補者がおり，国際渉外委員会で選考している。

3. 診療委員会（芳本委員長）

1) 「超低出生体重児に起因する慢性症候群」の小児慢性疾病追加申請について日本小児科学会に事前申請したが，遠隔期の病態が同一疾患であるとは言えないと指摘があり，厚生労働省への本申請は日本小児科学会慢性疾病委員会の段階で見送りとなった。与田監事より分類を神経で提出した場合，他の神経疾患とは異なると判断された可能性があり，「全身疾患」で申請すれば承認されるかもしれないと情報共有があった。

2) 日本小児科学会，日本マスキング学会と共同で先天性CMV感染症の新生児マスキング検査実施要望書をこども家庭庁担当大臣へ提出した。

4. 薬事委員会（落合委員長）

1) 新生児ビタミンA欠乏症に対する「チョコラA（錠・滴・末）」継続提供依頼
理事会承認を経て2024年12月4日（月）厚生労働大臣宛に提出した。

2) 日本医師会疑義解釈委員会より供給停止予定品目検討依頼
05疑2531-3, 05疑2731-2, 05疑2831を該当なしとした。

3) 「薬理作用に基づく医薬品の適応外使用事例」の募集
学会ホームページの会員専用サイトで受付しているが，情報はなかった。

4) 新生児医療における「調剤用パンビタン末」継続提供依頼
医薬品の販売中止の情報があり，新生児医療連絡会にて現況調査を行った。要望書案を作成し，企業に対し日本小児科学会薬事委員会と連携してヒアリングを行ったところ，企業より販売継続の回答があり，同議案は解決した。

5. 感染対策予防接種委員会（森岡委員長）

1) パリピズマブ適正使用の手引き作成委員会からの「本邦における肺低形成，気道狭窄，先天性食道閉鎖症，先天代謝異常症および神経筋疾患に対するパリピズマブ使用の手引き」について審議を行った。

- 2) 先天梅毒診療の手引き作成委員会に出席し（森岡委員長，岩谷委員），「先天梅毒診療の手引き 2023」の作成を行った。
6. 学会誌編集委員会（東海林委員長）
 - 1) 2024年度第1回編集委員会を2023年12月9日18:00～オンラインで開催した。
 - 2) 学会誌36巻2号（2024年6月発刊）の特集企画案
特集①「新生児栄養のトピックス」 担当：宮沢篤生委員
特集②「新生児医療における withdraw, withhold（仮）」 担当：戸石悟司委員
 - 3) 閲覧数増加のための方策
学会誌36巻1号（2024年2月）発刊時，学会ホームページや学会X（エックス）で周知することとした。
 - 4) 学術集会講演録（シンポジウム・ワークショップ座長まとめ等を含む）の是非
これまで学術集会の講演録を学会誌へ掲載するにあたり，座長にとりまとめを依頼してきた。一部の先生から掲載の是非を問う指摘があり，委員会で意見交換を行った。編集委員会としては，当日のディスカッションの内容を含め，引き続き掲載する方針であることを理事会で報告することとした。学術集会の座長を依頼する際にセッション内容のとりまとめの作成があることについて，事前に承諾を得てはどうかと提案があった。
7. 医療安全委員会（影山委員長）
 - 1) 「非純正 SpO₂ センサーについて」企業より安全性と精度に関する情報提供があり委員会で対応を協議した。企業にはさらなる企業努力を要請するとともに，第68回学術集会で，本委員会企画として「非正規品」に関する教育講演を行えるよう委員会で検討していく。
 - 2) 会員より「MIC-KEY 胃ろうボタンのトラブル増加」についての問い合わせがあり，委員会で協議した。会員もしくは所属する施設と MIC-KEY 取り扱い業者の間で情報交換をしてもらい，不具合が増加している状況であれば PMDA へ報告するよう回答した。
8. フォローアップ認定医制度委員会（河野委員長）
 - 1) 2023年度社員総会で「日本新生児成育医学会フォローアップ認定医制度」の規定および施行細則の承認を得た。
 - 2) 第67回学術集会でフォローアップ認定医制度に関するワークショップを開催した。制度の説明と今後の課題等を討論した。学会ホームページに認定医制度のバナーを設け制度について掲載し，会員専用サイトに必要書類，E-learning 用パスワードを掲載した。
 - 3) E-learning を12月1日（金）から公開した。初回の認定医申請期間は予定どおり5月1日（水）～5月31日（金）とした。
9. 男女共同参画推進委員会（河野委員長）
 - 1) 2025～2028年代議員選挙において総数250名の25%にあたる62名までの女性立候補者を当選とするクォータ制導入が社員総会で承認された。
 - 2) 第67回学術集会で「女性・若手医師の学会活躍を推進するカフェ企画」を開催し，18名の会員の参加があった。準備した女性医師の働き方の資料を提示し，若手女性・男性医師の意見を聴き，質問に答えた。
10. 広報委員会（水野委員長）
 - 1) 学会X（エックス）で全国のNICU施設紹介・情報提供を行った。
 - 2) 母乳のネット売買についてX（エックス）にポストしたことで，ヒントポット，CBCラジオから取材を受けた。
11. 病気・ケアの解説作成WG（長谷部WG委員長・代 水野理事）
 - 1) ホームページに掲載する項目が決まり次第，執筆者を公募する。
12. 社会保険委員会（佐藤委員長）

- 1) 第67回学術集会で、日本新生児看護学会との合同企画として、シンポジウム「NICUの診療報酬を考える～新生児医療において2対1看護体制ができるか～」を開催した。
- 2) 令和6年度診療報酬改定にて新生児特定集中治療室重症児対応体制強化管理料が新設されることが決定しており、大きく診療報酬が動く予定である。

森岡理事よりアンバウンドビリルビンの測定も早産児のNICU入院期間から正期産相当まで測定されるよう改定され、先天性サイトメガロウイルス感染症の治療としてのバリキサ（バルガンシクロビル塩酸塩）使用時の血中サイトメガロウイルス量の測定も保険収載される見込みであることが報告された。

13. 倫理委員会（飛弾委員長）

- 1) 第67回学術集会では、日本新生児看護学会との共催で、「多職種ワークショップ—事例を通じて児にとっての「最善」について一緒に考えましょう—」を行った。医療者26名（医師6、看護師10、臨床心理士／公認心理師10）、患者家族5組が参加した。詳細は学会誌に講演録として掲載予定。
- 2) 委員会では第68回学術集会の委員会企画について検討を始めている。

14. 教育委員会（中西委員長）

- 1) 第10回医学生・研修医向けNICU入門セミナー（オンライン）

実行委員長：齋藤朋子先生

日時：2024年6月22日（土）13：00～18：30 予定

参加費：学生と会員：無料、非会員：2,200円（税込）

- 2) 第27回教育セミナー（現地開催）

実行委員長：寺澤大祐先生

日時：2024年8月24日（土）～8月26日（月）

会場：ホテルグランヴェール岐山（岐阜県）

参加費：未定

- 3) webセミナー（学術委員会と交互に開催）

実行委員長：未定

日時：未定（5月予定）

- 4) 各種発行物の改訂

「新生児医療へのいざない」「新生児医療を志す医学生・研修医のための到達目標」の改訂を予定している。

15. 慢性期iNO保険収載WG（中西WG委員長）

- 1) 急性期以降iNO臨床使用に関するエビデンス抽出のためのスコーピングレビュー

筆頭著者：南谷曜平先生（埼玉医科大学）により、BMJ openにプロトコル論文を投稿した。minor revisionとなり、加筆修正後、再投稿済。

Title：“Inhaled nitric oxide therapy for preterm infants after 7 days of age: A scoping review protocol”

論文掲載料については2024年度の予算から算出した。

プロトコル論文がアクセプトされれば、加藤委員を中心に、スコーピングレビュー結果をまとめた論文を投稿予定である。

- 2) 慢性期iNOの本邦NICUにおける実態調査アンケート案の作成と実施

第67回学術集会シンポジウム4で「急性期以降のiNOは児の予後改善に必要なか？iNOの適応拡大を考える」でアンケート結果を発表した。

現在、宮田昌史委員がアンケート結果に関する論文を執筆している。

16. 新生児シミュレーショントレーニング普及推進WG（甘利WG委員長・代 中西理事）

- 1) 第1回シミュレーションセミナーを開催した。

日時：2023年11月4日（第67回学術集会最終日の閉会后）

時間：17～19時

場所：横浜駅隣接の会場

受講者：20名，指導者19名

内容：「病状説明」と「臍帯カテーテル留置」の2つのテーマで実施

支出：約5万円

今後の課題として，東京近郊以外での開催の場合の物品輸送，予算の確保，受講費の設定など。

2) 今後の予定

基本的にシミュレーショントレーニングのパッケージ作りに専念する。NCPRとは重ならないもの，NICUに特化した手技をテーマにあげる（胸腔穿刺，急変対応，ELBWIの挿管など）。

次回プログラムのトライアルは，第60回日本周産期・新生児医学会学術集会会期中の夕方の時間等で，学会プログラムには組み込まず，独立したものとして開催することを検討中である。

17. 総務委員会（和田委員長）

1) 内閣府提出の決算書類の補正が終了次第，個人情報保護規定について相談する。

18. 学会将来構想委員会（日下委員長）

1) 第67回学術集会のアンケート集計が終了した。

19. 災害対策委員会（徳久委員長）

1) 能登半島地震における周産期医療施設被害状況，要支援の確認（2024年1月1日）

- ・石川県，新潟県，富山県の周産期医療施設が機能停止に陥るような被害状況がないことを確認した。
- ・人的支援の必要性について，富山県庁の災害時小児周産期リエゾンより急性期の支援は必要なしとのことだった。
- ・急性期後の長期にわたる支援の必要性について要検討とした。

2) 日本小児科学会・分科会災害支援連絡会に出席（2024年1月12日）

- ・各分科会の能登半島地震における対応の共有，意見交換を行った。
- ・中長期的な対応については，今後別の機会を設けることとなった。

3) 第17回日本小児医療保健協議会小児周産期災害医療対策委員会（2024年1月12日）

- ・1月1～9日の被災地の災害対策本部・リエゾンの活動，およびPEACE掲示板やメーリングリストを用いた日本小児科学会，四者協の活動をまとめたクロノロジーが提示された。
- ・各分科会での情報の共有・集約・連携がなく，広報，連絡窓口の開設，四者協との連携も課題として挙げられた。
- ・発災時のPEACEやメーリングリストの運用について検討を要する。
- ・産科側においては，PEACEの入力の負担や，被災地の中では経験も少ない中，通常の診療も並行しながらリエゾン活動を行う負荷も大きいこと，またリエゾン間のコミュニケーションにも問題があったことが報告された。
- ・リエゾンは災害コーディネーターのサポートという立場であり，県外からリエゾンが入って活動していく体制にはなっていない。今回の震災での経験をうけ，域外から被災地のリエゾンを支援できるような相談窓口の設置やリエゾン支援のロジスティクスも今後の課題として考えられた。

20. 医療の標準化委員会（諫山委員長）

1) 慢性肺疾患（CLD）の診療ガイドラインの第一弾，10個のClinical Questions（CQ）は，パブリックコメントを経て，12月に学会ホームページで公開された。現在，他のCQに関するレビューを進めており，今夏ごろに第二弾の推奨案が完成予定である。

2) 動脈管開存症（PDA）の診療ガイドラインに関しては，今年度中に推奨案を決定し，夏頃までにガイドラインとして公表できればと考えている。

- 3) 薬剤師を中心とした薬剤班による薬剤ガイドラインを作成しており、今夏ごろに第一弾が完成して学会ホームページで公開予定である。
- 4) 日本小児集中治療研究会より「小児の初期輸液」に関するガイドラインの作成支援依頼があり、先方から小児集中治療医6人程度がJEBNeoに参加し、JEBNeoの教材を使用してガイドライン作成を進めていくこととなった。
21. 医療の質向上委員会（長委員長）
特になし
22. 利益相反委員会（廣間委員長）
特になし
23. 調査研究審査委員会（飛弾委員長）
特になし
24. 産科医療補償制度委員会（細野委員長）
特になし
25. 用語委員会（細野委員長）
特になし
26. 英文誌WG（森岡WG委員長）
特になし